

令和2年度
事業報告書

令和2年4月1日

～

令和3年3月31日

社会福祉法人 昭壽会

目次	頁	目次	頁
法人本部	1	共同生活援助事業所すみれハイツ	17
1. 年度重点的取り組み	1	1. 年度総括	17
(1) 経理部門	2	2. 利用者様支援	17
(2) 固定資産管理	2	3. 建物・設備・備品等管理計画	18
(3) 人材確保と育成	3	4. 年間行事計画等	18
(4) 福祉サービスの向上	4	5. 研修計画	18
(5) 地域広報活動	5	放課後等デイサービス事業所	19
(6) 地域福祉への貢献	5	1. 年度総括	19
障害者支援施設 あかしや寮	6	2. 利用者様支援	19
1. 年度総括	6	3. 家族連携	20
2. 利用者様支援	6	4. 関係機関連携	20
3. 建物・設備・備品等管理計画	8	5. 広報	20
4. 年間行事計画等	9	6. 建物・設備・備品等管理計画	20
5. 研修計画	9	7. 年間行事計画等	20
短期入所事業	10	8. 研修計画	21
日中一時支援事業所	10		
相談支援事業所 あかしや寮	10		
多機能日中活動支援センターわいわい	11		
就労継続支援B型事業所わいわい	11		
1. 年度総括	11		
2. 利用者様支援	11		
3. 建物・設備・備品等管理計画	13		
4. 年間行事計画等	13		
5. 研修計画	13		
生活介護事業所 わくわく	14		
1. 年度総括	14		
2. 利用者様支援	14		
3. 建物・設備・備品等管理計画	15		
4. 年間行事計画等	15		
5. 研修計画	16		

法人本部

1. 年度重点的取り組み

令和元年12月頃から、世界的に感染拡大した新型コロナウイルスにより、法人が経営する全事業所は、感染防止対策に追われ、年度計画の変更、延期、中止をせざるを得ませんでした。千葉県障害者施設における感染が報告されると、いつ事業所で発生するかと心配する日々を送りました。

幸いにも利用者様、職員には感染者はいませんでした。職員の同居人の職場や子供が通う保育園に感染者が出たことが何度かあり、気を緩めることができない1年間でした。

入所施設及びグループホームは、令和2年1月から外出泊及び面会を制限しました。職員にも不要不急の外出や旅行の自粛を求めてきました。

1回目の緊急事態宣言後は、リモート面会のほかに正面玄関風除室で、ガラス戸を隔ててウイルスの飛沫を防ぐ対策をして面会を再開しました。しかし、玄関のため、来客と打ち合う事があり、感染予防と落ち着いて面会ができるようにするため、ユニットハウスを購入しました。このハウスは、感染者発生時には、一時的な隔離室とすることを想定しています。冬期に更に1棟購入し、既存の簡易ハウスとともに、感染者が出た場合に備えました。

新型コロナウイルスは、変異株も発見され、近隣市町村でのクラスター発生が続き、令和2年12月から翌年3月までリモート面会のみとしました。結果、新型コロナウイルスだけではなく、インフルエンザに罹患した利用者様、職員はいませんでした。

通所事業所を利用している利用者様のご家族には、家庭での健康管理について協力を求め、送迎時と事業所到着時及び活動中に検温を行い、小まめに手洗い、手指消毒、換気を行って来ました。

生活介護事業所を利用している1名だけは、バスを利用して自由に移動でき、家族の管理も限度があるため、感染の危険性が高く、家族、役所と協議し、ワクチンの接種がすみ、感染拡大が収まるまで、事業所の利用を控えてもらっています。

毎日使用するマスク、消毒薬、使い捨て手袋等の確保は、6月頃までは入手困難な物品もありましたが、徐々に流通量が増え、在庫管理を徹底したこともあり、業務に支障が出ないようにすることができました。

職員が共有で使用するパソコン等の側には消毒薬を置き、申し送りや連絡事項はスカイプやメールなどを利用して、3密を避けるようにしました。職員の休憩場所を増やし、できるだけ4人以上では休憩しないようにしました。

全職員に、定期的にマスクと消毒薬を配布し、事業所内だけではなく、家庭での感染予防に努めてもらいました。感染症予防の研修会も法人全体と事業所ごとに数度行い、利用者様、職員を感染させないように、考えられる対策は実行してきました。

令和2年度に計画していた建物の修繕は、感染防止のため、業者を屋内に入れることができず、延期や中止をしました。築35年を経過したあかしや寮は、備品も老朽化しており、特に厨房内の冷凍冷蔵庫や大型エアコンが次々と故障したため交換しました。その他の器具も故障が多くなっているため交換を計画しています。

就労継続支援B型事業所は、地域行事が中止となったため、出店による収入がなくなりました。そのため、惣菜の移動販売の回数を増やし、品数と調理方法を工夫して収益の確保に努めました。

どこで感染するかわからない状況下であり、利用者様も限られた空間での生活が1年に及び、ストレスの解消が課題となっています。

(1) 経理部門

1) 経理業務

新採用の事務員への業務割り当てを行いました。理解度の確認が十分出来ず、再指導することがありました。会計事務所の伝票の整理も遅延しました。

現金出納、売上計上、労務士への給与計算データの提出、支払い処理などの業務については、大きな間違いはなかったものの優先順位を考えずに行っている状態であったため、業務の整理を行い、より効率的な事務処理を目指します。

教育のための業務確認表と業務マニュアルの整備を重点目標としましたが、完成には至らず、継続となりました。

国保連への請求は、毎月10日までに行うことが出来ましたが、受給者証の有効期限の見落とし、食数の間違いなどがあり、過誤申請を行うことが何度かありました。確認方法の見直しを行っています。

2) 文書管理

申請書類等の作成が提出期限ギリギリとなることが多く、十分な見直しを行って提出出来ないことがありました。

書類のファイリングの不備により、散逸することがあり、10月と2月に点検を行い、収納されるべきファイルに綴じて整理しました。

(2) 固定資産管理

1) 障害者支援施設あかしや寮

① 7人乗り送迎車は、老朽化により車検時の部品交換が多くなり、新車を購入しました。

② 昨年度は、熱中症での入院や通院者が複数名いたため、熱中症対策として、居住棟にエアコンの設置を計画しましたが、施設内の電力に余裕があるかや効率的な冷房方法を業者と検討していましたが、結論が出ないまま夏となり、工場や農業用ハウスで使用する大型冷風扇を4台購入して夏場をしのぎました。熱中症の疑いで通院した利用者様は1名のみでした。

③ 利用者様の高齢化により、A棟（中軽度棟）にも手摺りの設置を計画しましたが、高齢者施設と異なり、手摺りを設置している重度棟でも、手摺りを頼りに歩行する利用者様はおらず、車椅子を使用する利用者様が增加しているため、急いで設置する状況にはないことから、中止としました。

④ A棟リビングホールの床材張り替え、浴室脱衣場の壁、床の張り替えは、新型コロナウイルス緊急事態宣言などもあり、先送りとしています。

20年経過した厨房内業務用冷蔵庫が規定の保冷温度を維持できず、交換しました。

- ⑤ 新型コロナウイルス感染対策として、ユニットハウス2棟を購入し、重度棟玄関脇と多目的ホール横に設置しました。
- ⑥ 屋外に駐車していた車両を夏期の日差しと冬期の降雪から守るため、4台用のカーポートを設置しました。大雪が続いたため、通院や送迎時の雪下ろしが不要になり、運行がスムーズになっています。
- ⑦ 電話交換機が設置後14年経過し、故障が多くなり、機器一式を交換しました。

2) 共同生活援助事業所 すみれハイツ

- ① 築13年を経過したグループホーム「クリス」の劣化状況の点検は、給湯ボイラー1台に部品の破損があり修理しています。
- ② 築40年以上経過しているグループホーム「すみれハイツ」は、屋根や外壁の劣化状態を業者に依頼していますが、新型コロナウイルスの影響もあり、行えていません。
- ③ グループホーム「ベリー」のフェンスが、落雪のため破損し、建物保険により修繕しました。
落雪した場所が隣家に近いため、落雪防止対策を行う予定です。

3) 就労継続支援B型事業所 わいわい

- ① 築33年経過した椎茸加工棟の出入口、床などが腐食しリフォームを計画しましたが、実施できていません。
- ② 事業所前アスファルト舗装面に亀裂が出たため、補修工事を考えていましたが、新型コロナウイルス非常事態宣言とその後の感染防止のため、業者の都合が付かなくなり、先送りとなっています。

4) 放課後等デイサービス事業所 キッズハウスピッピ

ウッドデッキの腐食があり、一部分だけの補修を考えていましたが、ほとんどの木材に腐食が見られたため、解体し人工木で作り直しました。

(3) 人材確保と育成

1) 人材確保

正職員の募集であっても、夜勤が伴う生活支援員の応募は少ない状況でした。ホームページ上に求人コーナーを設ける予定でしたが、行えませんでした。

採用しても仕事内容をうまく教えることができないことがあり、早期離職につながるということから、OJTシートを各事業所で見直しを行っています。

障害者・児の福祉サービスの提供について、必要な知識と技能を業務に生かすため、見直しを行っており、業務マニュアルの改訂版を令和3年度に完成させる予定です。

新卒者の求人票の送付が遅くなり、計画通りには行えていません。令和3年度卒業生を対象に、北東北三県の福祉系専門学校・大学だけではなく、南東北と関東の方面にも求人票を出しています。

2) 人材育成

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、他県への研修だけではなく、県内の移動も気をつけなければならないため、外部研修への参加は自粛せざるを得ませんでした。

7月に、全職種職員を対象に、「障害者の人権と権利擁護」について、外部講師を招いて研修会を実施しました。毎日の業務で、これは虐待か否かを具体的に解説してもらい、自信を持って利用者様の支援ができるとの声が聞かれています。

8月には、生活支援員を対象に、4回目となる個別支援計画の研修を行いました。利用者様のニーズをいかに実現するかを各事業所から提出された事例を基に検証し、利用者様の生活がより豊かになるよう検討し、支援員の資質が向上することを期待しています。

秋以降、新型コロナウイルスの感染者が増加し、相談支援員研修とサービス管理責任者研修以外は受講を控えました。

勤続25年以上の生活支援員2名の労を労うため、日本知的障害者福祉協会に推薦し、功労賞を受賞しました。後輩の励みにもなると思います。

(4) 福祉サービス向上について

1) 障害者支援施設 あかしや寮

インフルエンザ対策として、1月から外出泊及び面会の制限を行っていましたが、以後も新型コロナウイルス感染拡大防止のため継続しています。

面会は、リモート面会のほか、玄関の風除室を利用してガラス越しでの面会を行っていますが、来客や温度管理に問題があることから、ユニットハウスを設置しました。

利用者様が楽しみにしている買物など、施設外に出掛けることができず、ストレスがたまり、普段とは異なる行動をする利用者様が増えています。利用者様のストレス緩和のため、毎月行事を企画して楽しんでいただくように工夫しましたが、回を重ねるごとに内容がマンネリ化してきたため、飽きられない企画立案に努めます。

手洗いの仕方について再教育を行っていますが、基本通り行える利用者様は少なく、手洗い場に支援員がついて指導しています。

消毒薬による手指消毒は、居住棟出入りの都度行う利用者様もいれば、無頓着な利用者様もあり、感染予防の意識づけに苦慮しています。

食事時には、支援員が食堂入り口に立ち、手指消毒の指導を行い、習慣づけるようにしています。

2) 就労継続支援B型事業所 わいわい

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、地域行事が全部中止となり、出店による収入がなくなりました。対策として、移動販売による惣菜などの販売回数を増やし、販売場所の開拓を行っています。

椎茸の加工販売は、収穫量が不安定で、コスト上昇により収益が上がっていません。代替え作業の開発も進んでいません。

3) 生活介護事業所 わくわく

若年性認知症や高齢のため、事業所の提供する福祉サービスに合わなくなった利用者様が2名退所し、ショッピングモールや町中を出歩く利用者様の事業所利用を自粛していただいたため、稼働率は大幅に低下しました。

暴力行為や固着傾向が強い利用者様の対応に追われ、他の利用者様の個別活動に十分関わることが出来ませんでした。

創作活動や軽運動など、利用者様が興味を持っていることに答えるように日々のプログラムを提供しています。

感染防止のため、屋外での活動がほとんどできず、利用者様の活動への不満はあったと思いますが、ご家族の協力もあり、感染者を出すことなく過ごせました。

4) 共同生活援助事業所 すみれハイツ

新型コロナウイルス感染防止のため、入居者様には就労先や通所事業所への移動以外は外出の自粛を求め、ご家族にも面会の制限に協力してもらいました。

一時期感染者が減少した時期に、支援員が付き添って買物を行いました。店舗入店時に手指消毒をしない、レジでの距離がとれないなどの感染予防対策を行えないことがわかり、指導を行っています。

県内の感染者が増加してからは、再度外出は自粛してもらい、買物は支援員が代行しています。

地域生活者として、近くの自動販売機を利用する以外、全てを代行して良いものなのか、支援員が付き添い外出するとしても、感染リスクをどこまで減らせるのか目安が無いなか、地域生活のための支援について模索しています。

5) 放課後等デイサービス事業所 キッズハウスピッピ

契約利用者様が11名となりました。グループでの活動も取り入れコミュニケーション能力を養いながら個々の成長、発達に応じた支援を心がけました。日々の活動の中で小さな気づきを大切に、問題や改善が必要なことはその都度話し合い、職員で情報を共有し、PDCAサイクル等による適切な個別支援の提供に努めました。

問題行動に有効な支援方法、ツールは積極的に取り入れ、ご家族、関係機関との情報交換も密に行い、児童を関係者全員で見守り支援を行いました。

事業所のPRもピッピオリジナルの広報を発行し、学校、役所福祉課、ショッピングモールなどに配布しました。

(5) 地域広報活動

新型コロナウイルス感染防止のため、当法人の活動を地域に知っていただく地域行事への出店は行えず、感謝祭も開催することができませんでした。

年2回の広報の発行とホームページだけでは、地域の方々の生のご意見を伺えず、各事業所への要望を把握できませんでした。

(6) 地域福祉への貢献

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、各事業所は外部との接触を極力少なくしてきました。感染に充分注意し、地域の福祉人材育成のために、実習生の受入れは行う予定でしたが、学校側も実習を自粛したため受け入れていません。

障害者支援施設 あかしや寮

1. 年度総括

定員40名ですが、年度初めは38名の入所でした。年度中の入所者は男性2名、女性1名でした。退所者は男性1名であり、年度末は定員の40名になりました。

利用者様へのサービス提供の向上のため、外部講師を招き、利用者様の意向をかなえるための支援計画と支援方法について、4回目の研修を実施しました。

新型コロナウイルス感染対策として、毎日4回検温を行い、異常の早期発見に努めました。施設内は、1時間毎に換気を行い、1日3回寮内消毒を実施しています。

職員も健康管理を徹底し、自宅での検温と出勤時の検温、不要不急の外出自粛、マスク着用、場所を分散してリモート会議形式での朝夕会を行い、感染防止に努めています。

感染症対策のため、施設外部にある面会室にて面会や来客対応を行っています。今年度は職員、利用者様ともに新型コロナウイルスやインフルエンザ罹患者はいませんでした。

施設行事に関しては、感染症防止対策のため旅行や感謝祭は中止し、年間予定と大きく変わりました。代替活動として施設内でのお祭りや映画鑑賞会等を毎月実施しました。

忘年会は施設内で実施しました。調理員の技術を活かし、握り寿司や、ハンバーグを目の前で焼くなど、実演を行いました。盛り付けや味は、利用者様から好評でした。

日中活動は、昨年実施した活動から利用者様に好評だったものを主に取り入れて、毎日違う活動を実施しました。利用者様からのサービス評価でも不満などは聞かれませんでした。

創作活動では、「障害者による書道写真コンテスト」に応募した利用者様2名が写真部門で銅賞を受賞しました。その他にも壁面飾りを共同で制作し、施設玄関に展示しました。

作品展への応募について、期日直前の準備になりました。

2. 利用者様支援

入浴支援時や排泄支援時などに身体確認を行い、自ら体調不良を訴えることが難しい利用者様の体調管理を行いました。日中活動終了後は、手洗い支援を行っていますが、多くの利用者様は、職員が付き添わないときちんと洗えない状態です。

買物外出は、新型コロナウイルス感染予防のため行えませんでした。散髪では、理容店に出張してもらい、寮内にて行いました。女性利用者様は、美容室の協力を得て、予約を入れて髪染めやカットに出かけています。

(1) 生活支援

個別支援計画書を基に、入浴・食事・排泄などプライバシーに配慮しながら、安心・安全に過ごしていただけるよう支援を行いました。

体重変動、身体異常などは、栄養士や看護師と協力し情報共有と問題解決に努めました。低体重であった利用者様には、栄養補助食品を提供し、改善が見られています。

(2) 生活訓練

掃除、洗濯、歯磨きなど、自分でできる事は自分で行っていただき、できない部分を支援しました。洗濯物の取り込みの声かけ、干し方への支援などが十分行えていません。

(3) 日中活動

1) 軽運動、創作活動

午前は歩行運動や身体を動かすレクリエーションを中心に行い、午後は体力向上のため屋外散歩を行いました。屋内では、創作活動として壁面飾りの作成を行いました。壁面飾りは正面玄関前に展示しました。

2) 余暇活動

自由時間には、テレビ、読書、音楽、ゲームなどで各自趣味を楽しむことができる環境を提供しました。

1年間外出泊が出来ない状況であったため、施設内で初詣や祭りなど行事を行いました。

(4) 健康管理

健康診断、歯科検診を実施し、病気の早期発見と治療を行いました。感染症予防として午前の活動時間を早めに終わり、支援員が付添って手洗いを行っていますが、利用者様1人1人の確認は行き届いていません。

定期的実施していた脳波検査で異常が見られた利用者様が、てんかんと診断されました。医療機関と情報共有しながら様子観察を行っています。

(5) 食事介助等

給食会議等で利用者様の食事状況、肥満状況などの情報共有を行っています。配膳や下膳、盛り付けなど、できることは自分で行えるように支援しましたが、ご飯のお代わりを多く盛る利用者様に対し、適切な量を支援することがうまく行えていません。

(6) 入浴・清拭

身体に障害がある利用者様には、特殊浴槽での入浴を行っています。入浴時には、利用者様の身体状況を確認し、異常があった場合は医務と連携し対応しました。

水虫などの皮膚疾患がある利用者様には、入浴、足浴の順番の変更や足拭きマットの交換などの対応を行いました。

(7) 排泄

トイレットペーパーの使用量が1日1ロール以上という利用者様が数名いるため、トイレットペーパーの適切な使用量を説明しました。1回の使用量で切ったトイレットペーパーを用意し、排泄時に使用することを2ヶ月試しましたが、結果として使用量はほとんど変化が見られない状態でした。今後の支援については検討し、利用者様一人一人に合わせて対応していきます。

(8) 生産活動

1) 椎茸栽培

今年度より椎茸の卸売価格は、原木、種菌、ハウスの補修などの経費から積算して、値段の改定をおこないました。昨年度同様、収穫した椎茸は厨房で使用する分を除き、全て日中活動支援センターわいわいに販売しています。

新型コロナウイルスの感染防止のため、あかしや寮利用者様と地域から通所してくるわいわいの利用者様が一緒に作業を行う事を止め、作業場所を分離しました。

春先にかけて植菌作業を利用者様と一緒に行いました。植菌する原木の本数を減らし、夏用は400本、冬用は600本、計1,000本の原木を購入しました。

2) リサイクル活動

4月からアルミ缶等の価格が安くなり、5月より段ボールやペットボトル、新聞紙、雑誌の価格が安くなったため、売上げが低下しました。雑誌、新聞紙は買い取り価格が高い業者で買い取ってもらい、少しでも工賃が増えるようにしました。

分別作業では、利用者様が選別を行った後に職員が最終確認を行い、スチールとアルミが混ざらないよう注意しました。

毎日の作業終了後には、使用場所と選別作業で使用した道具の掃除を行い、活動場所の清潔保持にも努めました。

3. 建物・設備・備品等管理計画

1) 居住棟・寝具管理

8月と12月には大掃除を行いながら、施設内の危険箇所および補修箇所の有無の確認しました。居室やトイレは汚れた際、その都度掃除を行いました。不良な箇所については、修繕を行い、利用に支障が出ないようにしました。

(2) 清掃

食堂は毎食後、テーブルや椅子の消毒や床清掃を行いました。日中活動後も、活動で使用したテーブルや椅子、マットの消毒を行いました。

異食や誤嚥に繋がらないよう床清掃も行い、清潔で安全な環境作りに努めました。

(3) 施設内衛生

新型コロナウイルス感染症対策として手すり、ドアノブなどの消毒回数を増やし、換気を1時間おきを実施し、感染予防に努めました。

手指消毒薬、空間除菌剤噴霧器の設置場所を増やしました。

(4) 生活用水確保・水質検査

5月、8月、11月、3月に水質検査を行いました。異常はありませんでした。

(5) 設備・修繕関係

施設備品の不具合があった際、対応を行いました。係での修繕が不可能であった場合は、利用者様の生活に支障が出ないように、業者へ依頼して修理を行いました。

4. 年間行事計画等

年間行事計画

月	行事・イベントなど	月	行事・イベントなど
4	創立記念日 道路清掃	10	環境整備
5	あかしや春祭り	11	粘土作品作り
6	前期健康診断	12	大掃除 忘年会
7	大掃除 歯科検診 炊き出し訓練	1	あかしや神社初詣 おみくじ 福袋
8	あかしや夏祭り	2	豆まき
9	映画鑑賞 昼食会	3	宝探しゲーム、ジェスチャークイズ

5. 研修計画

月	研修内容
4	事業計画書の読み合わせと確認
5	利用者様の観察記録について、個別支援対応記録について
6	行動規範の読み合わせ
7	虐待・権利擁護について（外部講師）
8	個別支援計画書について（外部講師）
9	観察力を磨く
10	危険予知訓練
11	感染症予防対策マニュアル読み合わせ
1	ライフステージに応じた支援の実際 強度行動障害 伝達研修 新型コロナウイルス対策
2	今すぐ役立つ感染症予防 基礎編
3	今すぐ役立つ感染症予防 対応編

短期入所事業

年度重点目標報告

新型コロナウイルス感染予防対策として、法人が経営する通所事業所の利用者様を主に受け入れました。受け入れ時はご家族の体調の確認も行いました。

ご家族の急病により、長期にわたり利用した利用者様は、普段は夜遅くまで起きていて、朝起きられず通所事業所を休みがちでしたが、利用者様はすぐに施設内での生活に慣れ、夜間の睡眠もとれ、通所事業所の送迎にも間に合うようになりました。ご家族は、施設での生活を不安に思っていたましたが、生活リズムが整い喜んでいました。

家庭に戻ると、生活リズムが乱れたため、家族と相談し定期的に短期入所を利用して、生活リズムが大きく乱れないようにしています。

施設入所の希望者が3名あり、施設生活を体験していただき、利用者・ご家族が納得していただけるようにしています。

短期利用時の私物の確認は、返却忘れがあったため確認表を用いていますが、未だに返却忘れがあるため改善が必要です。

日中一時支援事業

年度重点目標報告

利用者様は、当法人事業所を利用している方で、新規の利用申し込みはありませんでした。通所事業所が休みとなる土曜・日曜の利用のため、特別な活動は行っていませんが、顔見知りの利用者様がいるため、不安がることなく他利用者様と過ごしています。

相談支援事業所 あかしや寮

1. 年度総括

契約利用者数は69名（児童6名）です。サービス等利用契約書やアセスメントの遅延があったため、請求一覧表や顧客表、月案などの整備を行い、利用者様への対応や請求漏れのないように努めました。

利用者様からの相談に対しては、行政や関係事業所との調整を行い、利用者様が望んでいるニーズと要望を見極め、的確なサービスを提供し、充実した生活が実現するようにしました。

特別支援学校からの実習については、窓口を相談支援事業所とし、相談員が対応する体制に変更しました。

新型コロナウイルス感染拡大により、電話やリモートでの対応が多くなり、本人の真意を的確にくみ取れたのか確認が持てなかったことが気になるところです。

日中活動支援センター わいわい（多機能型）

就労継続支援B型事業所 わいわい

1. 年度総括

年度内平均工賃が12,000円を超えた月もありましたが、目標工賃15,000円には達しませんでした。新型コロナウイルス感染拡大により、地域行事がすべて中止となり、出店による収益がなくなったことが、大きく影響しています。清掃委託業務と、惣菜・菓子類の移動販売に力を入れ、収益の増加を図りましたが、全体の収入回復には至りませんでした。

椎茸加工販売は伸び悩み、新たな作業種目も見つけることが出来ませんでした。

地域における新型コロナウイルス感染拡大により、地域生活者である利用者様の感染が懸念されましたが、ご家族にも健康管理、外出の自粛など協力を願いし、感染者を出すことなく年度を終了することが出来ました。

定員は20名ですが、特別支援学校の卒業生が1名加わったのみで現在14名と、定員を大きく下回っています。

2. 利用者様支援

（1）椎茸加工

あかしや寮が栽培した生椎茸を買い入れ、産直場や移動販売車で地域に販売しています。販売数が少ないため、収益が上がらない状態が数年続いており、椎茸販売に変わる製品開発が必要ですが、現状に固着しすぎ、アイデアが不足しています。

（2）園芸畑作

計画していた農作物の栽培は行っていません。幼稚園・保育園・小学校の卒業式用のアザレアを栽培し、注文を受けて販売しています。注文数は昨年度と同じになりました。開花状態の指定があったので、ハウス内開閉や加温機温度設定の管理を徹底し、注文条件に適したものの納品ができました。

（3）清掃業務委託

あかしや寮清掃業務は、新型コロナウイルス感染防止のため、利用者様を寮内に入れるのを一時中止しました。

県内の感染者状況を踏まえ、会議等で話し合いの結果、感染者が少なくなった9月から利用者様の業務を再開しました。利用者様には、マスク使用や消毒を徹底し、施設入所者と接触しない区域での清掃に取り組んで頂きました。

（4）移動販売

4月より場所を変え、移動販売車で地域の病院、介護施設、養護学校等へ、惣菜や菓子類、生椎茸や乾物製品などを販売しました。

9月からは販売日を増やし販売先も拡大しました。週に1度は販売車を2台とし、別々の事業所へ販売に出ました。

惣菜の種類を増やし、お客様の購入意欲を高める工夫をしました。下田温泉ゆ〜らくえん内でアイスクリームの販売を行っています。無人販売のため万引が絶えず、防止対策を講じながら販売しています。

(5) 飲食店（レストラン「味彩亭」）

味彩亭は接客業のため、配置する利用者様が限られます。レストラン内清掃及び調理補助が主な作業になりますが、利用者様が日によっては体調を崩し休むことが多くありました。お客様への挨拶や接客指導を行っています。対人関係をうまく出来ないことが多いので指導方法に工夫が必要でした。調理スタッフからは、厨房内での配膳補助や食器洗いなどを行える利用者様の希望がありますが、利用者様の募集を相談支援事業所等へパンフレットを配布しています。

(6) 生活支援

服薬や点眼がある利用者様で、自身ではうまく行えない場合には介助しました。歯磨きが十分に行えない利用者様への支援も行っています。

(7) 就労支援

一般就労を希望する利用者様は、今年度はいませんでした。希望があった場合には、就労・生活支援事業所との連携を図ることにしています。

(8) 相談援助

利用者様から家庭内でのトラブルや作業中のスタッフの言動などについて相談があり、相談支援専門員と話を聞き、解決策などについて話し合いました。

(9) 実習の受け入れ

相談支援事業所より八戸高等支援学校3年生の実習の紹介を受け、2回の実習を実施しました。

就業・生活支援センターより本人様、保護者様が当事業所の利用を希望しているとの連絡があり、特別支援学校卒業後に利用することが決まりました。

(10) 食事提供

テーブルの配置やアクリル板の設置、テーブルの数を増やすなど、三密をさけるようにして、感染予防に努めました。食事時には、献立の説明を行い、食事に興味を持って食べていただけるようにしました。

(11) 健康管理

新型コロナウイルスが青森県内でも報告されるようになり、送迎時に乗車前の検温を行い、事業所に到着後も、再度検温を行ってから事業所内へ入っています。午前午後の作業終了後も、検温を行い、発熱の早期発見に努めています。

ご家族に、感染拡大防止対策のため、家庭での健康管理に注意していただくよう依頼しました。

3. 建物・設備・備品等管理計画

(1) 修理

椎茸加工棟の外壁修繕を行いました。椎茸管理用ビニールハウス補修を行いました。

(2) 環境整備

5月、10月に事業所周辺の草刈りやゴミ拾い、垣根を剪定、芝生の草刈り、側溝掃除を行いました。

(3) 生活用水確保・水質検査

わいわいでは、飲用水・生活用水は井水に頼っているため、検査機関に年4回水質検査を依頼しています。毎日、塩素含有量の測定を行い、飲み水に適するように管理を行いました。

4. 年間行事計画等

月	内 容	月	内 容
4	創立記念日	1 1	健康診断
5	環境整備・健康診断	1 2	利用者様忘年会、大掃除
7	歯科検診	2	節分・歯科検診
8	大掃除		

5. 研修計画

月	研 修 内 容
7	「虐待と権利擁護について」(外部講師研修)
8	「個別支援計画について学ぼうⅣ」(外部講師研修)
1	「ライフステージに応じた支援の充実」 「強度行動障害スキルアップ」(伝達研修) 「障害福祉サービス事業所における新型コロナウイルス感染症発生時の業務継続ガイドライン」
3	「感染症予防編」「感染症対応編」

生活介護事業所 わくわく

1. 年度総括

感染予防対策を徹底した1年となりました。送迎車に乗る前の検温や来所時の手洗い、うがい、手指消毒を徹底しました。活動時や昼食時も密にならない様に距離を置くなど、対策を行いました。

高齢により、わくわくの活動の参加が難しくなり、介護度が増した利用者様が、介護施設等へ入所したため、定員割れとなり新たな利用者様がいなかったため、稼働率が大幅に減りました。新規の利用者様を獲得するために、特別支援学校、相談支援事業所等に事業所の活動をアピールして利用していただく工夫が必要です。

2. 利用者様支援

(1) 生活介護

1) 入浴

新型コロナウイルス感染拡大のために、隣接する温泉の利用を控えたため、普段利用している利用者様は残念がっていました。ご家族の要望により、事業所の入浴サービスを行う場合には、一対一の介助を行いました。プライバシーが守られ、ゆっくりと入浴することが出来、ご家族にも喜んでいただきました。

2) 排泄

利用者様の排泄パターンを観察し、トイレ誘導を行いました。失禁が少なくなった利用者様もいますが、排泄パターンに乱れがある利用者様もあり、スタッフ間で話し合い、適した排泄パターンの再構築を行い、失禁が少なくなるように努めました。

(2) 日中活動

1) 創作活動

母の日や七夕、ひな祭りなど季節行事を大切に活動しました。東京タワーや新聞紙を用いてダルマを多数作り、事業所の窓辺に並べました。ご家族や外を通った方が見て、興味を示し声を掛けてくださる方もいました。

手芸の出来る利用者様と、野菜をモチーフにした手芸品の作成にも取り組み、完成品は地域に販売し好評を得ています。

活動を行うことにより、生活にメリハリが付き、意欲の喚起を促しました。家庭内での生活から、仲間と活動を共にすることにより協調性・社会性の獲得を目指すプログラムを提供するように心がけました。

2) 音楽活動

利用者様に人気の高い音楽活動は、カラオケや利用者様が弾くキーボードに併せて歌い、発語のない利用者様も音楽に合わせて体を動かし手拍子やマラカスやタンバリンなどでリズムをとり、全員で参加できる活動になっています。

忘年会では、音楽を交えた寸劇をビデオ撮影し観賞しました。映像はDVDに加工し、ご家族へ配布して活動内容を見て頂ければ良かったと反省しています。

3) 調理活動

定期的に、誰もが参加できるようなメニューを考え、調理実習を行いました。利用者様からは「今度は何を作るの」と聞いてきて、楽しみにしています。今年度は、新型コロナウイルスのために、食材の購入に出かけて品物を選んだり、支払いをする体験が出来ませんでした。

4) 軽運動

利用者様が興味を持って運動するように、ドラえもん体操・サザエさん体操などを取り入れました。利用者様の好みがあって、全員一緒に運動することが出来なかったのも、全員の意見を聞き、できるだけ運動を行えるようにしていきます。

エアロサイクルが老朽化しており、買い換えを検討しています。

(3) 健康管理

1日3回のバイタル測定を行いました。体調不良が見られる利用者様には、ご家族と連絡をし通院をしていただきました。

来所時、水分補給前、食事前、トイレ後に必ず手洗い、消毒を行い、感染予防に努めました。自分で歯磨きができる利用者様には、プラークチェックを行い、更に磨き残しがないよう歯磨き指導を行いました。

(4) 食事介助等

嚥下に問題のある利用者様が多いため、口や舌の嚥下体操を取り入れ、誤嚥防止に努めました。食前、食後の挨拶、テーブル拭きは食事のマナーとして指導しました。

3. 建物・設備・備品等管理計画

特殊浴槽の不具合が続き、業者に部品交換をして頂きました。

エレベーターは9月に定期点検が行われ、異常はありませんでした。

2階ホールの蛍光灯器具が点灯しなくなり、新しい物に交換予定です。

4. 年間行事計画等

月	行事・イベントなど	月	行事・イベントなど
4	創立記念日	10	音楽発表会
5	環境整備	12	大掃除、忘年会
6	前期健康診断	1	初詣
7	七夕祭り	2	節分
8	夏祭り	3	ひな祭り

5. 研修計画

月	内 容
5	障害特性
6	熱中症予防と対応
	虐待権利擁護
7	ソーシャルスキルトレーニング
8	個別支援計画について学ぼう
10	危険予測訓練
12	誤嚥について
1	ライフステージに応じた支援の実際 強度行動障害 伝達研修 新型コロナウイルス対策
2	施設利用方法について

共同生活援助事業所（グループホーム）すみれハイツ

1. 年度総括

定員18名のところ、9名の利用となっています。入居希望者の問合せが3件ありましたが、新型コロナウイルス感染拡大により、見学や体験利用ができなかったことや、相談支援事業所が入居を勧めても本人やご家族がためらい、実現しないこともありました。

新型コロナウイルス感染防止のため、地域行事への参加や休日の外出は自粛となり、必要物品等の購入については、事前に希望を確認し支援員が代行しました。一時期、外出先を限定して、支援員の同行による外出ができるように一部緩和しましたが、県内にて新たな感染者が出てからは、再度自粛しました。

新型コロナウイルス感染症予防の為、手洗い、うがい、消毒の徹底を指導しています。

2. 利用者様支援

(1) 生活支援

洗濯支援や入浴支援、金銭管理等の確認を行い、自立した地域生活が支障なく送れるように支援に努めました。居室、トイレ、浴室等については、入居者様と掃除の方法を一つ一つ確認しながら行いました。

世話人より男性用住居クリスの入居者様が、無視や粗暴な行動が目立つとの報告があり、状況確認すると、他の入居者様から不快になるような言動を何度も受けていたことが原因でした。本人様の希望により、住居をクリスからすみれハイツへ移し、環境の調整を行いました。その後は、世話人に対しての無視や粗暴な行動、入居者間でのトラブルはなくなり落ち着いて生活しています。

(2) 地域生活援助

地域の清掃活動や行事については、新型コロナウイルス感染防止のため、今年度の開催は中止となりました。

青森県での新型コロナウイルス感染者が3週間以上発生していなかった9月に、支援員が付き添っての買物外出を行いました。入店時の手指消毒を忘れたり、他の来店者に自ら近づいて行くなど、ソーシャルディスタンスを保つ事が難しい状況だったので、1対1での対応や指導を行いました。

(3) 健康管理

新型コロナウイルス感染防止のため、入居者様、世話人、支援員は朝夕の体温測定・記録を行い、健康管理に努めました。高血圧症の入居者様は、朝夕の血圧測定を行い、記録を定期受診時に主治医へ提出しました。

以前、抗てんかん薬の飲み忘れがあったことから、服薬管理方法を改めました。その後は、薬の飲み忘れはありません。不規則な生活リズムが発作を引き起こす原因となることもある為、睡眠不足にならないよう、本人様の日課を見直しました。

一般就労している男性入居者様が、職場の健康診断にて、大腸疾患が疑われるとの指摘があり、3月に検査をしました。ポリープが5個見付き、令和3年4月に内視鏡治療の為、入院することとなりました。

(4) 食事の提供

家庭的なメニューを提供するように心がけました。各世話人が創意工夫し、季節の食材をふんだんに使用してバラエティ豊かな食事を提供しているため、入居者様からは大好評です。

体重が増加傾向にある入居者様には、栄養士と話し合い、メニューや食事量の検討を行いました。体重は、徐々にではありますが減量しています。

3. 建物・設備・備品等管理計画

入居者様、支援員、世話人が協力して、定期的に草刈りや排水溝の掃除などを行いました。クリスのウッドフェンスには防腐剤を塗りました。ベリー敷地内に竹が発生する為、発見時にはその都度除去しました。

6月に機器のメンテナンスと大掃除を行いました。

9月末にベリーの暖房用ボイラーが故障したため、業者へ連絡し修理を行いました。

大雪のためベリーの屋根から落雪がありフェンスが破損しました。建物保険で補修を行っています。洗濯物干し場として使用していたビニールハウスの屋根が強風により吹き飛ばされたため、次年度に張り替える予定です。

4. 年間行事計画等

計画していた行事は、新型コロナウイルス感染拡大のため、外出を自粛し行いませんでした。

外出の機会が少ないことから現在は、入居者様の希望を聞き、毎月入居者様とマクドナルドやすき家等のドライブスルーを利用しています。

定期的に休日や利用者様の誕生日などに昼食の手作り体験や季節のイベント、希望に応じて焼き肉等を行い、外出せずに楽しめるイベントを企画しました。

5. 研修計画

世話人・生活支援員全員が、外部講師を招いての虐待・権利擁護研修を受講しました。施設内のスキルアップ研修では、新型コロナウイルス感染予防について学びました。

7月	虐待・権利擁護について（外部講師研修）
11月	感染症予防対策マニュアル
2月	今すぐ役立つ感染症予防 基礎編
3月	今すぐ役立つ感染症予防 対応編

放課後等デイサービス事業所 キッズハウスピッピ

1. 年度総括

年度初めの児童は4名でしたが、保健師の紹介で4名、保護者様の口コミで2名、相談支援事業所の紹介で1名の利用者様が増え11名の登録となりました。

土曜・祝祭日の児童が少ない事、クラブ活動での休みや他事業所との併用利用などがあり、稼働率が50%台と低い状況が続いています。3月末で、転居や特別支援学校卒業のため2名が契約終了となりました。

地元の学校に通学している児童4名の利用希望があり、内3名は事業所の見学を終え、4月からの利用が決まりました。

児童の支援は、プログラム通りに進まない事が多いまま、帰宅時間を迎えてしまうことがあります。今後は利用者様個々のアセスメント、ストレングス、ニーズの細やかな把握を行い個別支援計画書を作成し支援を行っていきます。

2. 利用者様支援

(1) 活動

1) 創作活動

折り紙、空き箱等の身近な材料を使い、動物やロボット等を工夫して作りました。児童が自由に制作することで創造力を育て、ハサミやテープカッターを使う細かい作業を行うことで、集中力と注意力を養う作業を提供しています。

2) 運動

敷地内にある入所施設のグラウンドや多目的ホールを利用し、サッカー、卓球、鬼ごっこ等をして体力作りをしました。活動を行うことにより、コミュニケーション力やルールを守るための機会としています。

3) 調理活動（プチクッキング）

多くの児童が参加出来るように、夏・冬休みにホットケーキ作り等を行いました。回数を重ねる毎に児童が自発的に自分が出来る事、やってみたいことを選び調理を行いました。

4) 園芸活動

ひまわりは種から育て、エンドウ、ミニトマトは苗を購入して植えました。水やりをし、成長を観察しました。ブルーベリーの収穫は、熟している実、熟していない実を見分けて丁寧に収穫出来ました。収穫後は、ジャムにしてホットケーキにのせ食べました。遊んでいて畑にボールが入ると、作物が傷つかなかったかと気にかけて、成長を楽しみにしていました。食育教育にもなりました。

(2) 身辺自立

手洗い方法のイラストや頑張りカレンダーを活用し、手洗い方法や排泄の確認を行っています。冬期は防寒着をハンガーにきちんと掛ける事が出来るように指導した結果、丁寧に行えるようになりました。

新型コロナウイルス感染防止のため、マスクの着用、手指消毒を行えるよう指導しました。

(3) 地域交流

新型コロナウイルス感染防止のため、地域への外出は自粛しました。

10月には、青森県出前トークを利用し、警察犬のデモンストレーションをお願いしました。

(4) 余暇

新型コロナウイルス感染防止のため、買い物等の外出を中止しました。お楽しみ会や児童の誕生会は事業所内で行っています。

3. 家族連携

保護者様達が情報交換や互いに悩み相談をすることを計画しましたが、新型コロナウイルス感染防止のため行う事が出来ませんでした。

送迎時には、児童の活動の様子、良かった事、頑張ったことを保護者様の前で必ず一つ褒めることを行いました。ご家族からの相談にはその都度応じ、可能な限りの解決策を助言しました。

4. 関係機関連携

学校と関係機関連携会議を開催し、2名の児童の情報交換を行いました。送迎時には担任と情報交換を行い、必要に応じ、保健師、相談支援専門員と連携しました。

5. 広報

法人事業所広報とは別に事業所独自の広報を発行しています。事業所の特色や活動の様子を載せPRしました。保護者様、近隣の小中学校・保育園・市町村福祉課などに配布しました。新規児童獲得のため、見学や体験利用のパンフレットの配布をしています。

6. 建物・設備・備品等管理計画

ウッドデッキの老朽化に伴い、新しく人工木のウッドデッキにしました。

リビングルームエアコンが故障し、業者に依頼して修理しました。

駐車場のアスファルト舗装が、剥がれた箇所が増えてきています。施工業者には、連絡済みです。

新型コロナウイルス感染防止用品収納物置を購入しました。

7. 年間行事計画等

新型コロナウイルス感染防止のため、地域での活動は中止となりましたが、事業所内で月1回のお楽しみ会を開催しました。

開催月	内 容	開催月	内 容
6	ピッピマーケット	1 1	ピッピマーケット第2弾
7	かき氷を作って食べよう	1 2	クリスマスパーティー
8	ピッピ縁日：プールで魚釣り	1	ピッピすごろく大会
9	ピッピ秋祭り	2	室内雪合戦大会
1 0	ハロウィーン仮装大会	3	1年間頑張りました発表会

8. 研修計画

開催月	内 容
4	「令和2年度の事業計画書の読み合わせ」
5	「コミュニケーションについて」
6	「ソーシャルストーリーについて」
7	「虐待と権利擁護について」 (外部講師研修)
8	「個別支援計画について学ぼう」 (外部講師研修)
9	「放課後等デイサービスに関する加算について」
1 0	「危険予知訓練」
1 1	「事例検討」プレインジムのエクササイズ (外部講師研修)
1 2	「感染症予防」
1	「ライフステージに応じた支援の充実」 「強度行動障害スキルアップ」(伝達研修) 「障害福祉サービス事業所における新型コロナウイルス感染症発生時の業務継続ガイドライン」
2	「トークンエコノミー法について」
3	「特別支援学校の遊びの指導について」

js